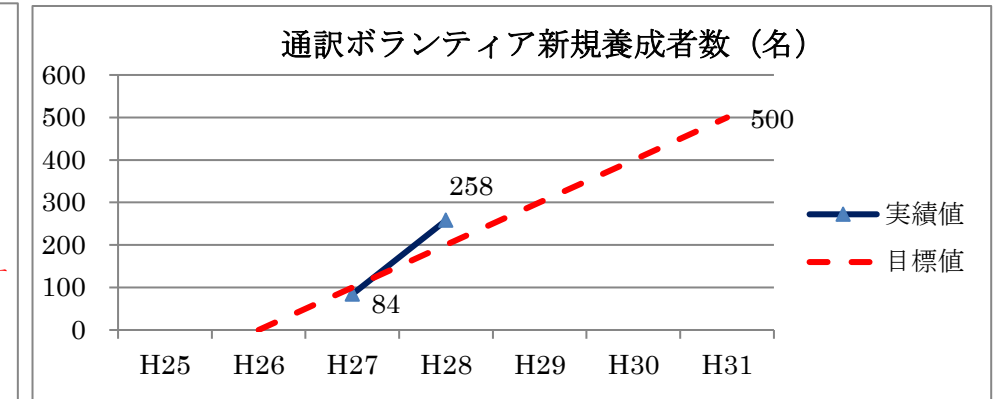
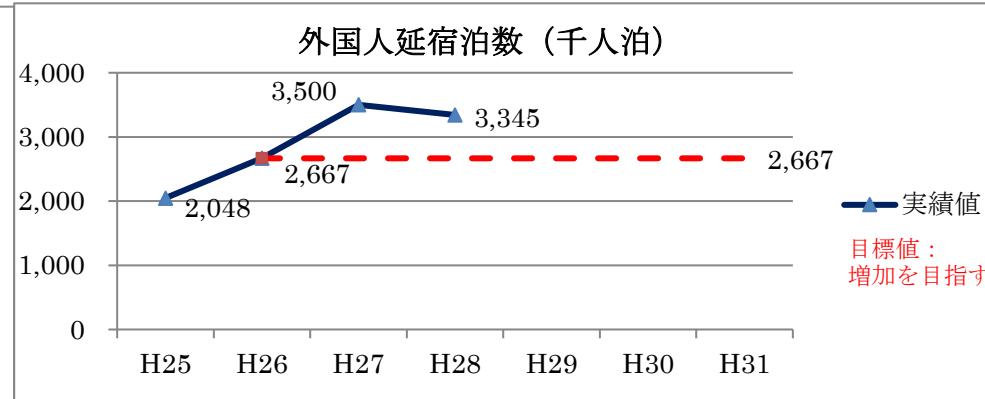
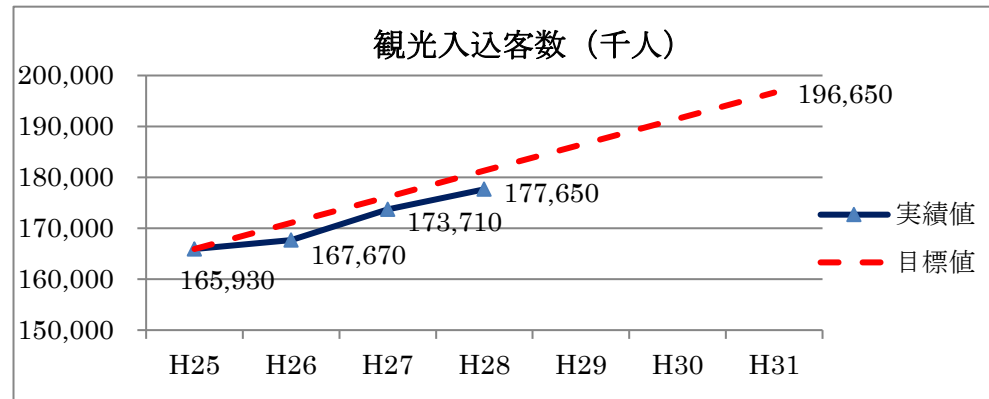


総合戦略Ⅰ ～東京オリンピック・パラリンピックを契機とした「世界中から人々がやってくるCHIBA」づくり～

東京オリンピック・パラリンピックが、千葉県内においても競技開催されることは、千葉の魅力を高める未来への投資を行い、千葉県の発展につながる「宝」を磨きあげるとともに、これを広く国内外に発信することにより、「世界中から人々がやってくるCHIBA」を作り上げる千載一遇のチャンスである。この実現に向けた取組は、新しい人の流れを創出し地域経済の活性化を図るとともに、多様な主体が連携し安全で安心して快適に過ごせる環境を整備し、子どもたちが誇れる千葉を「オール千葉」体制で作りに上げるものであり、まさに、地方創生の核となるものである。このため、「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」を本「総合戦略」に位置付け、2020年までの5年間における取組を推進することにより、地方創生の実現を目指す。

【数値目標の動向】



【28年度の主な取組】

- 誰もが何度でも訪れたくなる観光地づくりに向けて、観光客の動向等を的確に把握するとともに、観光公衆トイレ等の観光関連施設の整備に対し助成を行いました。
- 東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、訪日外国人観光客向けの無料公衆無線LAN環境の整備に対し助成を行いました。
- 県内での新たな観光需要等を掘り起こすため、市町村や鉄道事業者等との連携により、鉄道を活用した県内周遊プロモーションを実施しました。
- 観光客の増加に向けて、大規模な観光PRイベントや、季節に応じた切れ目ない観光キャンペーンを実施するとともに、マスメディアや交通広告、地域情報誌等の媒体を効果的に活用するなど、積極的・集中的な情報発信を行いました。

【要因・状況分析】

- 本県における平成28年の観光入込客は4年連続で過去最高を更新しましたが、宿泊を伴う観光客が少ないことが課題となっています。
- また、外国人観光客が全国的に増加傾向にある中、本県の認知度はまだ低いものと考えられます。

【課題】

- 宿泊・滞在型観光や周遊型観光の推進により、観光客の長期滞在化を図る必要があります。
- 本県観光の魅力を、国内だけでなく海外にも広く発信する必要があります。
- 東京オリンピック・パラリンピックを見据え、今後さらに増加が予想される外国人観光客へのおもてなしを、本県全体に広げていく必要があります。

【取組方針】

- 観光客の長期滞在化に向け、宿泊・滞在につながる大規模イベントへの助成を行うとともに、県内周遊コースのPRやプロモーションを実施します。
- 本県観光の魅力を海外に発信するため、知事のトップセールスや観光商談会を実施するとともに、海外のメディアや旅行会社、大学生などを招致したモニターツアー等を実施します。
- 外国人観光客に適切に対応するため、観光・宿泊事業者を対象に研修会を実施し、オール千葉でのおもてなし力の向上や、外国語による観光ボランティアガイドの養成・活用を図るとともに、多言語での案内表記を推進します。

【28年度の主な取組】

- 成田国際空港を有する優位性等を生かし、外国人観光客を積極的に県内各地に誘致するため、台湾・タイ王国・マレーシアで開催された旅行博への出展や現地商談会の開催など、さまざまな手法で本県観光地のPRに努めました。
- 外国人観光客を県内各地へ誘致するため、県内周遊コースを開発し、多言語のパンフレットや観光ウェブサイト等により周知を図りました。
- 多くの集客交流が見込まれるMICEについては、公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー（CCB）を中心に市町村や関係機関との連携により、国際会議の誘致を行ないました。

【要因・状況分析】

- 外国人観光客は、ウェブサイトの活用により観光情報を入手する傾向が強まっています。
- 本県は、成田国際空港から、東京、富士山、京都等を結ぶゴールデンルートに向かう外国人観光客の通過点になっているという状況があります。
- MICEについては、国際的な誘致競争の激化に加え、国内でも各都市でMICE誘致に意欲的に取り組んでおり、国内外での誘致競争が厳しくなっています。

【課題】

- 外国人観光客に本県の魅力を幅広くPRするため、多言語に対応した本県の観光ウェブサイトについて、さらなる周知が必要です。
- 国ごとの嗜好に合わせた県内周遊コースを開発し、PRする必要があります。
- 東京オリンピック・パラリンピックを契機に多くの外国人が訪れることから、この機会を確実に捉え、本県へのMICE誘致につなげていく必要があります。

【取組方針】

- 観光ウェブサイトについて、プロモーションのたびにPRし周知拡大を図るとともに、新設したFacebookページも活用し、本県の魅力を幅広く発信します。
- 平成28年度に開発した外国人観光客向けの県内周遊コースの内容を更新するとともに、SNS等を通じた情報発信を進めます。
- MICEについては、公益財団法人ちば国際コンベンションビューローをはじめ関係機関との連携強化を図り、より一層の誘致の強化を図ります。

【28年度の主な取組】

- 事前キャンプや本大会開催時に訪れる外国人へのおもてなしの充実に向けて、多言語によるコミュニケーション支援体制を整備するため、「通訳ボランティア養成講座」を県内5箇所ですべて6回開催し、英語154名、中国語10名、スペイン語10名の計174名が修了しました。
- 日常会話程度の語学力のある方を対象に、通訳として身につけるべきマナーや知識の習得と併せて、異文化やオリンピックに対する理解、千葉の特性や魅力に関する知識を深めるとともに、英語・中国語・スペイン語に分かれて、実際のボランティア活動を想定したロールプレイを実施しました。

【要因・状況分析】

- 平成27年度は通訳ボランティア養成講座を3回開催しましたが、平成28年度は6回開催としたことが通訳ボランティア新規養成者数の増進につながりました。

【課題】

- 通訳ボランティアの更なる増大に向けて、講座の実施状況を踏まえつつ、開催回数の増加や受講定員の拡大について検討する必要があります。
- 通訳ボランティアの能力やモチベーションを維持・向上するため、国際交流イベントやスポーツ大会、観光地等での案内等、通訳ボランティアの活動機会の情報を関係機関から提供していただき、活動機会を増やす必要があります。

【取組方針】

- 通訳ボランティア養成講座の受講定員の拡大等、講座の実施方法について検討し、引き続き新規養成者数の増進に取り組みます。
- 公益財団法人ちば国際コンベンションビューローの通訳（語学）ボランティア制度の内容や手続きの流れ等を紹介する文書を作成し、市町村及び関係機関に周知するとともに、庁内外での会議において語学ボランティア制度を紹介することにより、制度の認知度を高め、活動機会の確保を図ります。
- 平成29年度に同財団が語学ボランティア制度要綱の改正を行う予定であるため、派遣条件の明確化や活動範囲の拡大等、ボランティア派遣依頼者がより使いやすい制度となるよう、助言してまいります。

【K P I の動向】

①大会の成功・開催効果の全県への波及

- ア オリンピック・パラリンピックの競技会場にふさわしい環境の整備
- イ オリンピック・パラリンピックムーブメントの推進
- ウ 大会開催効果の全県への波及

○観光入込客数【再掲】

基準値	直近値	目標値
165,930 千人 (25 年)	177,650 千人 (28 年)	196,650 千人 (31 年)

○外国人延宿泊数【再掲】

基準値	直近値	目標値
2,667 千人泊 (26 年)	3,345 千人泊 (28 年)	増加を目指す (31 年)

○開催競技やオリンピック・パラリンピックに関する普及・啓発イベントの開催件数（累計）

基準値	直近値	目標値
— (27 年度)	15 件 (28 年度)	23 件 (31 年度)

②キャンプ・国際大会・MICEの誘致

- ア 事前キャンプの誘致
- イ 国際大会等の誘致
- ウ 誘致に関する情報の一元化
- エ MICEの誘致

○ナショナルチームのキャンプ誘致数（累計）

基準値	直近値	目標値
3 チーム (27 年度)	4 チーム (28 年度)	20 チーム (31 年度)

○国際スポーツ大会支援事業を活用した実施大会数（累計）

基準値	直近値	目標値
— (27 年度)	0 回 (28 年度)	5 回 (31 年度)

○スポーツコンシェルジュが支援し、事前キャンプやスポーツイベントの誘致につながった件数（累計）

基準値	直近値	目標値
— (27 年度)	3 件 (28 年度)	20 件 (31 年度)

○国際会議開催件数

基準値	直近値	目標値
58 件 (25 年度)	68 件 (27 年度)	100 件 (31 年度)

※28 年度実績値は 29 年 12 月頃判明

③成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化

- ア 成田空港の利用促進と人・物の流れの取り込み
- イ 交通ネットワークの強化・充実

○成田空港の航空旅客数

基準値	直近値	目標値
3,531 万人 (26 年度)	3,962 万人 (28 年度)	3,800 万人以上 (31 年度)

○高規格幹線道路の整備率

基準値	直近値	目標値
85% (26 年度)	89% (28 年度)	整備率の向上 を図る

○県都 1 時間構想

基準値	直近値	目標値
71% (26 年度)	72% (28 年度)	76%以上 (31 年度)

④バリアフリー化の促進

- ア ハード面でのバリアフリー化
- イ ソフト面でのバリアフリー化
- ウ 心のバリアフリーの推進

○通訳ボランティア新規養成者数【再掲】

基準値	直近値	目標値
— (26 年度)	258 名 (28 年度)	500 名 (31 年度)

○ちばバリアフリーマップ掲載施設数

基準値	直近値	目標値
1,687 箇所 (26 年度)	1,698 箇所 (28 年度)	1,930 箇所 (31 年度)

⑤魅力ある観光地づくり

- ア 観光客の安全・安心の確保
- イ 観光地の受入環境の整備・おもてなし力の向上
- ウ 観光地としての新たな魅力の創出

○観光入込客数【再掲】

基準値	直近値	目標値
165,930 千人 (25 年)	177,650 千人 (28 年)	196,650 千人 (31 年)

⑥外国人受入体制の整備

- ア 外国人観光客の受入環境の整備
- イ 外国人へのおもてなし力の向上

○外国人延宿泊数【再掲】

基準値	直近値	目標値
2,667 千人泊 (26 年)	3,345 千人泊 (28 年)	増加を目指す (31 年)

○通訳ボランティア新規養成者数【再掲】

基準値	直近値	目標値
— (26 年度)	258 名 (28 年度)	500 名 (31 年度)

⑦国際交流の促進

- ア 国際交流と国際理解の促進
- イ ボランティア人材の育成

○通訳ボランティア新規養成者数【再掲】

基準値	直近値	目標値
— (26 年度)	258 名 (28 年度)	500 名 (31 年度)

⑧戦略的な千葉の魅力発信

- ア 全国・世界への幅広い情報発信
- イ 千葉県ならではの新たな魅力の発見・磨き上げ・発信
- ウ 郷土の歴史や文化の発信
- エ オール千葉での多様な魅力の発信

○海外向けプレスリリース事業による記事掲載件数

基準値	直近値	目標値
1,578 件 (26 年度)	1,175 件 (28 年度)	増加を目指す (31 年度)

○チーバくん大使による情報発信件数

基準値	直近値	目標値
534 件 (26 年度)	853 件 (28 年度)	増加を目指す (31 年度)

○テレビ等メディアで取り上げられた件数

基準値	直近値	目標値
5,233 件 (26 年度)	6,239 件 (28 年度)	増加を目指す (31 年度)